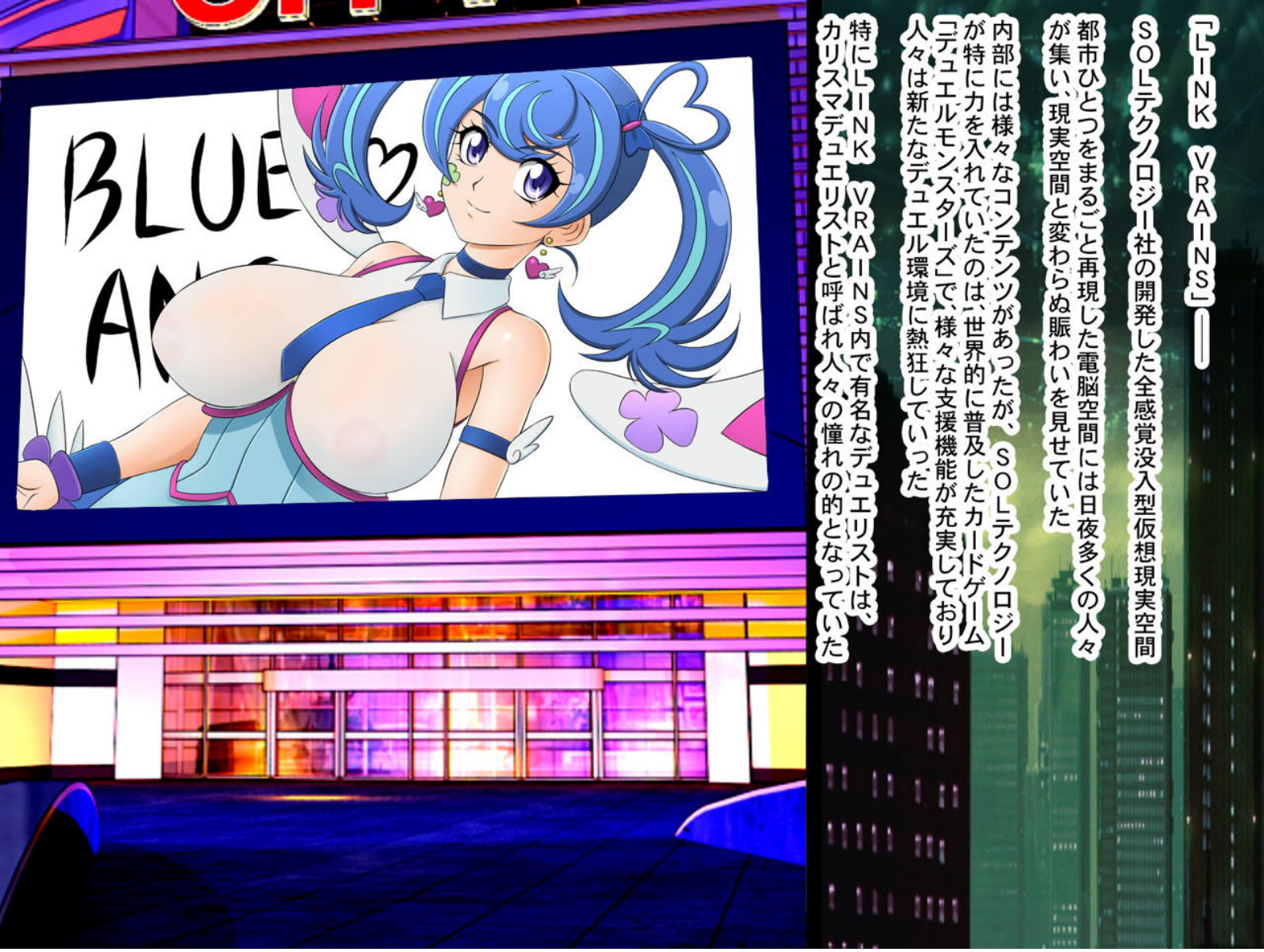
VRセックスにドハマりしたネットアイドルは
カードゲームに興じるか 前編
Blue Masochistic Girl 1
GLAMOUR WORKS
ADULT ONLY



「ＬＩＮＫ　ＶＲＡＩＮＳ」――

ＳＯＬテクノロジー社の開発した全感覚没入型仮想現実空間

都市ひとつをまるごと再現した電脳空間には日夜多くの人々が集い、現実空間と変わらぬ賑わいを見せていた

内部には様々なコンテンツがあったが、ＳＯＬテクノロジーが特に力を入れていたのは、世界的に普及したカードゲーム「デュエルモンスターズ」で、様々な支援機能が充実しており人々は新たなデュエル環境に熱狂していった

特にＬＩＮＫ　ＶＲＡＩＮＳ内で有名なデュエリストは、カリスマデュエリストと呼ばれ人々の憧れの的となっていた

都市ひとつに人々が集うとなると公的なコンテンツ以外にも、利用者間で行われる私的なコンテンツが乱立するようになっていった

その中には、あまりおおやけに語られることが憚られるモノも存在した……そう「セックス産業」であるプログラムさえ追加すれば、どんなプレイでも可能になるＶＲセックスを提供するこのサービスは、瞬く間にＬＩＮＫ ＶＲＡＩＮＳに広まっていった

ＳＯＬテクノロジーもメディアの普及には、性的要素が重要であると認識していたので、これらの乱立を黙認していた

ひとりのアバターが人気のないビルの谷間を歩いていた

建物のひとつに入ると端末を立ち上げ、映像を表示させる

何十もの画像が入れ替わり表示されていく、それらは全て性的な画像であった

やがてひとつの画像で止めると、それにタッチした

「ご指名ありがとうございまーす！」
タッチされた画像から女の子が飛び出してきた
それはブラックマジシャンガールであった
『イントゥザ撫隷淫ず』へいらっしゃいませ～」
現れたブラックマジシャンガールは、デュエルに
よるものではなく、風俗嬢の操るアバター……
つまりここは、VRコスプレ風俗店であったのだ
「では、まずこのアバタープログラムへの切り替え
をお願いしますね～
これには様々なセックス機能が備えていますので
快適なプレイを保証いたします」

「アバターの切り替えは終わりましたか？
ふふ……お似合いですよ～お客様……
あっと……マスターとお呼びしないとですね！」
「あー……その……君は……」
「あ、ハイハイ、AIじゃありませんよ？ちゃんと中身は人間です」
「あ……そうなんだ」
「こういう不明確なやりとりは、AIじゃできませんからね
もちろんアバタープログラムも人間と遜色ない感触ですよ
ほら、おっぱい柔らかそうでしょー？」
ブラックマジシャンガールは無邪気に胸の双丘をさらけ出す
と、その柔肉をぷるぷると揺らしてアピールする
それを見て痩身ながらも筋肉質な男のアバターになった客は
苦笑する

客がリラックスしたのを確認したブラックマジシャンガールは、目を細め、それまでの雰囲気をがらりと変えて妖艶に微笑むと足を広げて口を開いた
「それじゃあマスター……『デュエル』します？」
そう言って前垂れをまくり上げる
その股間に下着は無く、柔らかそうな秘裂が露わになる
ブラックマジシャンガールは、その割れ目を両手で拡げると再びにんまりと口の端を吊り上げた
客の目がブラックマジシャンガールの股間に吸い付けられる
そこには綺麗なピンク色の肉ヒダが、妖しくしっとりと濡れていた

「じゃあ、『先攻』はもらいますねー」

ブラックマジシャンガールは、客の前にぺたんと座りこむと胸の柔肉を捧げ持ち、客の股間に押し付ける

「デカパイを二体召喚〜……なんちゃって」

ブラックマジシャンガールの巨乳が客の股間の肉棒を挟みこむ

「おッ！おぉッ！」
ブラックマジシャンガールのバキュームフェラを受けて客が我慢しきれないといった様子で呻く
ブラックマジシャンガールは、そんな客の反応を見ながら舌使いに緩急をつけ肉棒を吸い上げる

じゅぱッ
ぢゅぽッ

ぷぷはッ

ドピュッ

限界は案外早く訪れた
ブラックマジシャンガールの肉の谷間に白い噴泉が勢い良く噴き上がる
「はぁ、はぁ……凄いよブラマジちゃん
確かにこんなフェラテク、Ａーじゃ無理だわ」

「どうですか～？一度射精したのに全然萎えないでしょ？
射精感だけ何度も味わえる、これがＶＲセックスなんです！」
ブラックマジシャンガールは口を拭いながらにっこりと微笑む
そしてくるりと尻を向けると手をアナルにあてがい、指で広げた
「そういえばマスター、私今日から新しいプログラムを入れたん
ですよ～これでアナルセックスにも完全に対応になりました！
……私の『初めて』貰ってくれます？……」

ブラックマジシャンガールの誘いに男も否応はなかった
尻たぶに手をあてアナルがよく見えるように広げると
肉棒をあてがう
ドキドキ

その肛門は固く引き締めてあるような見た目とは裏腹に肉棒の先端が、触れると信じられない柔らかさで弾力を返す
ずぶりと亀頭の先が肉穴にめりこみ、ブラックマジシャンガールの小さな体がビクンと震える
ムニュ
ビリッ
んっ！

肉棒がゆっくりと柔肉をかきわけ、奥へと突き進む
そのブラックマジシャンガールの小さな肉穴が限界まで広げられ
内蔵を圧迫されていく感覚にブラックマジシャンガールは、感極
まったような声を上げ息を吐き出した
ズブブ
ゾクッ
んほおっ

肉棒をブラックマジシャンガールの尻に深々と沈めた男は、尻を押さえつけると思い切り腰を引く
するとカリが直腸の内壁をえぐり、ブラックマジシャンガールが悲鳴を上げる
肛門から肉棒が抜ける直前で腰を止めると今度は勢いよく突き挿れる
肛門を拡げられ、肉ヒダを抉られるたびにブラックマジシャンガールの嬌声が上がり続ける
アひィッ
ぐっ
ズズズッ！
ギュッ
ブリブリ

男の腰使いにブラックマジシャンガールは既にメロメロになっていた
男は繋がったままブラックマジシャンガールを抱き起こすと、上下を入れ替え、今度は下から突きだしはじめる
ふとももをがっちりと押さえてから足を思い切り広げさせ、ブラックマジシャンガールの肛門を抉りまくる
「アァッ！ま、マスター！もうダメ！イクッ！初めてのアナルでイッちゃいますぅー！」
ブギュッ
ブギュッ！
あ♥
アァッ♥
アァッ♥
イクッ
もぉもぉダメェッ
オォ♥
いくぅ
おっ♥
おほォッ

ブラックマジシャンガールが絶頂を迎えようとした瞬間
男はぴたりと腰の動きを止めた
「?ど、どうしたんですか?マスター……」
あと一息で絶頂に達しようとしていたブラックマジシャンガールは、続きをせがむ
「……なあ、ブラマジちゃん……
アンタ本当はブルーエンジェルだろ?」

「なッ！ナニを言ってるんですか！」
「俺さ、アンタのファンなのよ
先週アンタにデュエルを挑んだの覚えてるかなあ？
まあ覚えてないだろうな……挑戦者は多いし
で、さあ、その時アンタに貼り付けたパラサイトワーム
のカード、そこにウイルスプログラムを仕込んでおいた
のに気付かなかったろ？」
ブラックマジシャンガールが青ざめていく……
「アンタをいつでも追っかけられるように座標を表示
させていたら驚いたよ
アンタ、ログインしてもデュエルしていない時は
長時間ここから動かないじゃない？
まさかとは思ったけど、こんなとこで嬢をやっていた
とはね……」
男はカードを取り出すと発動を宣言する
「即効魔法『偽装看破』！」
ブラックマジシャンガールの姿が掻き消え
本来のアバターが姿を現す……

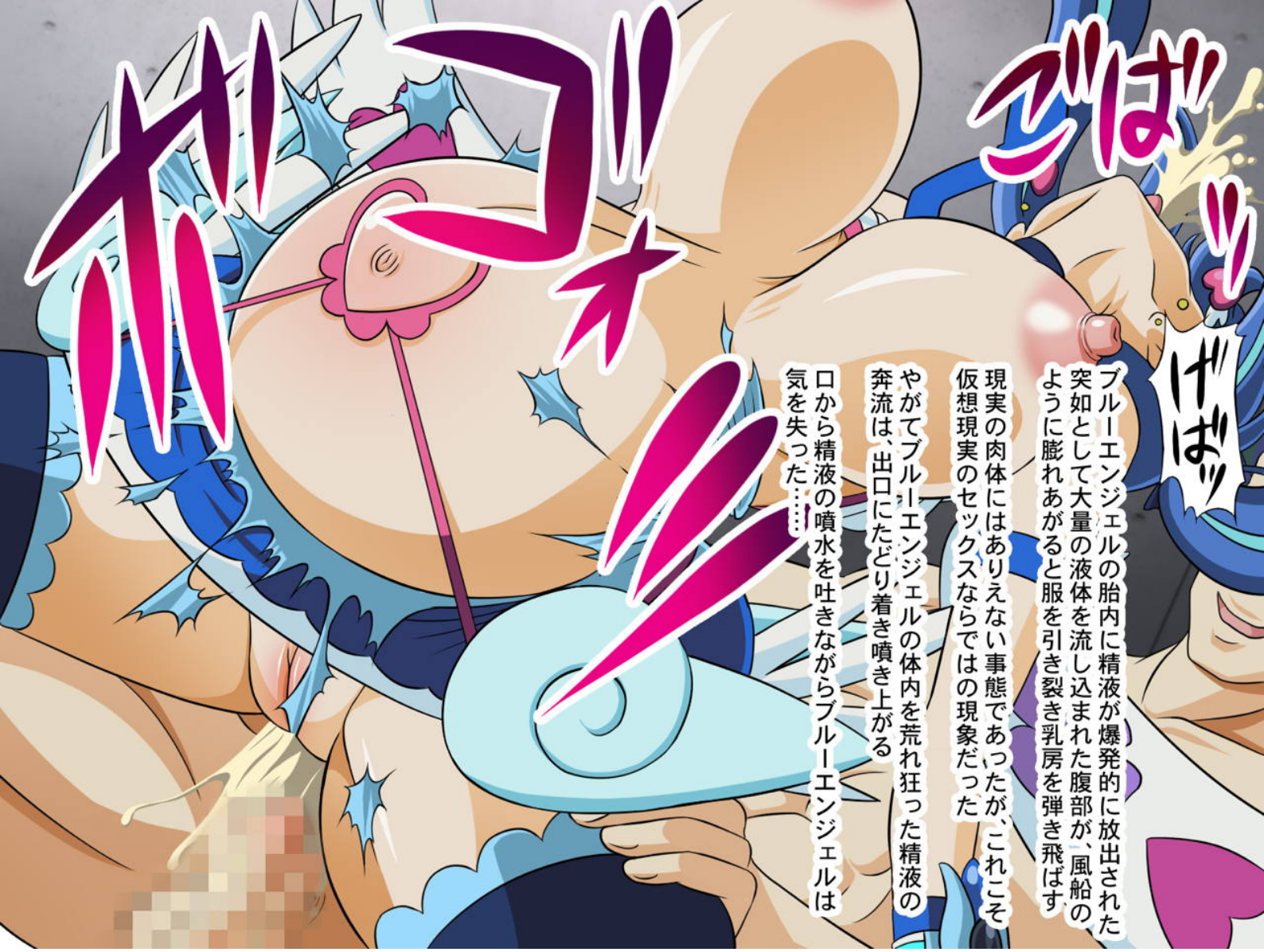
「あぁッ！」
いまや完全にブラックマジシャンガールの姿は消え
カリスマデュエリスト『ブルーエンジェル』が姿を現
していた
「いや、ほんとガッカリだよ……
俺の天使がこんなところでチンポ漁りしてるビッチ
だったなんてさ……やっぱアレ？
興味本位でVRセックスしてみたら、あまりに気持
ちよくてドハマりしちゃったとかなパターン？
どんだけヤリまくっても、現実の体は処女のまんま
だもんな」
「あ……あ……」
「まあ、どうでもいいさ……
ただアンタには俺の純情を踏みにじった報いを受け
てもらうぜ？淫乱天使にお仕置きだ！」

「ところで気づいたか？さっきから俺が録画プログラムを作動させているのをよ」
「！」
「『ブルーエンジェルをヤってみた』って生配信してるんでいい声で鳴いてくれよ？」
男はそう言い放つと再び腰を動かし始める
「やめてぇッ！撮らないで！この姿を犯さないで！」
ブルーエンジェルは半狂乱になって泣き叫ぶが、男はそれを聞き入れる様子はまったくなかった……

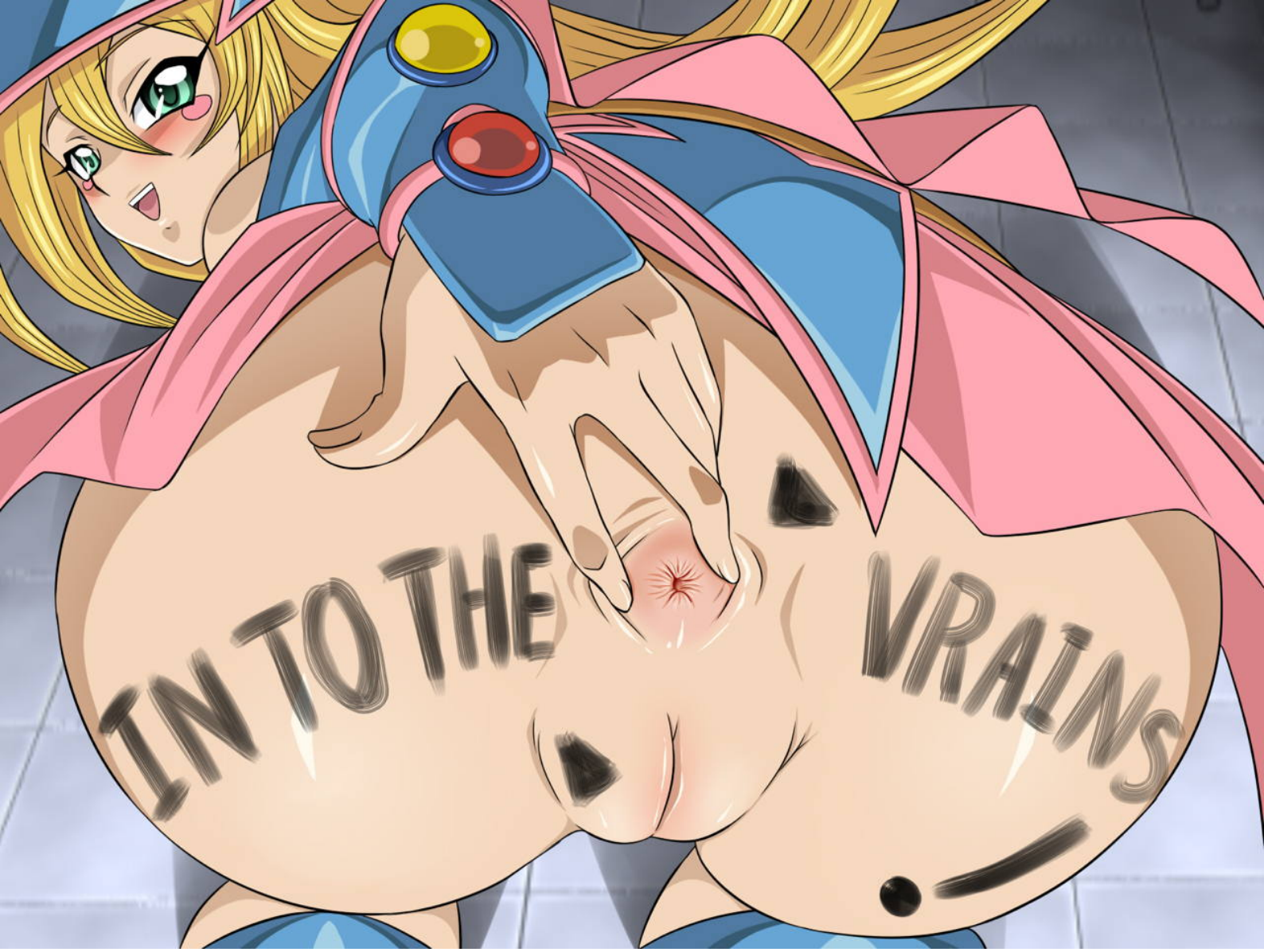
「な、なんでッ？ぬ、抜けない！」
ブルーエンジェルが悲鳴を上げる
「ハハハ！体は正直ってか
天使ちゃんの尻穴は俺のチンポを離す気はないってよ」
逃げようとしたブルーエンジェルだったが、男の言うとおりアナルが肉棒をしっかりと咥えこんでおり、どれほど身を捩っても、びくともしなかった
「……なんてなー
アンタのアバターのコントロールは既に俺の手中さ
俺の許可無しに体を動かすこともできねえし、ログアウトすら許さねえ！」

「な、なにが純情よ！結局私を犯すのが目的だったんでしょ！
それってただのストーカーじゃない！」
「うるせえ！ごちゃごちゃ言わずにアンタは喘いでりゃ
いいんだよ！」
男は乱暴にブルーエンジェルの腰を抱き寄せると、再び肉棒
を深々と突き刺した
悔しそうにブルーエンジェルは顔を歪めるが、男の言うとおり
体の自由が効かない
ズブリ
くッ

「そういえば、さっきイケなくてご不満のようでしたなー
まずは一発ヌイておくか」
男はブルーエンジェルの体を揺すると己の
肉棒をこする
その様子はもうセックスというより、ただの
肉オナホとしか思えない扱いであった
そして男はブルーエンジェルの直腸内に射精した……
ドピュッ
ふぅ


ごぼッ
ごぼッ
ボコォ
ブルーエンジェルの胎内に精液が爆発的に放出された突如として大量の液体を流し込まれた腹部が、風船のように膨れあがると服を引き裂き乳房を弾き飛ばす
現実の肉体にはありえない事態であったが、これこそ仮想現実のセックスならではの現象だった
やがてブルーエンジェルの体内を荒れ狂った精液の奔流は、出口にたどり着き噴き上がる
口から精液の噴水を吐きながらブルーエンジェルは気を失った……

広い居間に異臭が立ち込めていた
ソファからずり落ちた葵の股間からは、ちょろちょろと尿が漏れ続けている
通常、全感覚没入型仮想現実の情報が現実の肉体に影響を与えることは少ない
だがあまりに強烈な快楽信号が、葵の肉体に襲いかかり蝕んでいた
今も葵は痙攣を繰り返している
その股間は尿以外の液体が多分に混じり、牝の匂いを漂わせていた……
To be continued...


IN TO THE
VRAINS

INTO THE
VRAINS